



## ごあいさつ

田上 繁(非文字資料研究センター センター長)

非文字資料研究センターは、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」(2003 - 2007 年度)の成果を継承、発展させることを目的に 2008 年 4 月に日本常民文化研究所付置として創設されました。

21 世紀 COE プログラムは、文字に表されない人間の諸活動を資料化、体系化することにより、人類文化研究のための新地平の開拓を目指したものでしたが、その 5 年間の活動を通じて、従来の研究では必ずしも有効と認識されていなかった「非文字」という用語が、世界的にも“HIMOJI”として認知されうるほどの成果をあげることができました。本センターは、21 世紀 COE プログラムの目的をさらに進展させるために、学内外の研究者を研究員として組織し、同プログラムの研究事業の柱であった図像、身体技法、環境・景観という三つの課題を中心に共同研究を推進することになります。

すでに、3 年間(2008 - 2010 年度)にわたる第 1 期の研究事業を成し遂げ、2011 年度より新たな第 2 期の研究事業に取り組むことになりました。第 2 期研究事業では、非文字資料研究を一層深化させるために、ヨーロッパ生活絵引編纂や、研究成果の発信に関する情報工学的研究など、5 課題 7 プロジェクトを組織し、新たな共同研究を推進することになります。

また、非文字資料研究センターは、世界各国の非文字資料関連の研究機関や研究者との交流を一段と深め、世界的なネットワークを形成して、非文字資料研究の世界的拠点となることを目指しております。現在、海外の 8 つの大学・研究機関と提携関係を結び、研究交流を積極的に進めるとともに、海外提携機関とは若手研究者の短期派遣、訪問研究員の受け入れの事業も展開し、世界的に活躍する若手研究者の育成に力を注いでおります。第 2 期では、これまでのような若手研究者への研究支援に加え、提携機関相互の研究者同士による学術交流を実現化していくことが重要な課題となります。

これら第 2 期の研究事業が成果をあげ、非文字資料研究がさらに世界的にも飛躍できますように、今後とも非文字資料研究センターへのご支援をお願いいたします。